



細かい作業も楽しんで体験した藤本さん(左)と村山さん

湯前中2年生職場体験 働くやりがいを実感

湯前中学校(古家慎也校長)の職場体験が9月6、7日の2日間で行われ、2年生29人が町内外の事業所で働くことのやりがいを感じていました。

ことしは保育園や福祉施設、レストラン、消防署、木材会社、自動車整備工場など、町内を中心に17事業所で体験が行われ、それぞれ1～3人ほどに分かれて活動しました。

藤本蓮さん(同校2年=野中田3)と村山蓮さん(同=上村)は里宮神社(工藤維春宮司)で境内の掃除をしたり、玉串に使う紙を切ったりすることに汗を流しました。藤本さんは「自宅でもプラモデルを作るなど細かい作業が好きなので、紙を切ったりする仕事や落ち葉をはわくことが楽しかった」と話していました。



代表して橋田会長から記念品を受け取る敬老者

湯前町敬老会 300人をお祝い

第68回湯前町敬老会は9月9日に農村環境改善センターで開かれ、75歳以上の町民約300人が食事やアトラクションを楽しみながら互いに会話を交わしていました。

主催する地域婦人会長の橋田實子さん(74=下里)は「本町は素晴らしい長寿の町。久しぶりに会う人たちとの話に花を咲かせてほしい」とあいさつ。75歳以上、90歳以上、95歳以上に記念品がそれぞれ贈られ、サプライズとして100歳を迎えた4人にも、花束が贈られました。

代表して猪熊悦子さん(75=野中田3)が関係者にお礼を伝え、参加者は昼食をほおぼりながら、シンガーソングライター「むたゆうじ」さんのショーを楽しんでいました。



食改委員に教えてもらいながらカレーを作る児童たち

湯前小4年生通学合宿 家族や仲間のありがたみ感じる

湯前小学校(菅原浩子校長)の通学合宿は10月9、10日に農村環境改善センター一帯で開かれ、4年生29人が共同生活を体験し、家族や仲間の大切さを学びました。

児童が家庭を離れて暮らすことで、日常生活のありがたみを考えてほしいと教育委員会が主催。夕方、児童はAコープ湯前店で食材を買い、食生活改善推進委員に包丁の使い方や具材の炒め方などを教えてもらって、カレーとサラダを作りました。

改善センターで寝泊まりをし、次の日は地域婦人会が作った朝食を食べて学校へ。下校後の閉校式では中村和弘教育長が児童一人一人に終了証を手渡しました。



朗読劇で平和の大切さを参加者に訴えたなすなの会



心をつなげて、「翼をください」を歌う会場

なすなの会の平和を考える会 朗読劇・歌で平和の大切さ学ぶ

ゆのまえ読み聞かせなすなの会(園田篤子会長)の夏の平和を考える会が8月26日に農村環境改善センターで開かれ、約50人が朗読劇や歌で平和の大切さを学んでいました。

保育園や小中学校で読み聞かせをしている同会は、10年ほど前から毎夏に平和を考える会を開催。今回は、同会の宮崎勇市さん(70=浅鹿野)が脚本、映像、音楽などを担当し、結成15周年のコーラスグループ「コール湯歌里」(藤本伸介代表)が協力しました。

「いい日旅立ち」など3曲のコーラスで幕を開けると、原爆の焼け野原で亡くなった7歳の女の子を題材にした「怒り地蔵」などを会員が読み聞かせ。原爆が落とされたときの様子を伝える映像や状況に合わせた音響を組み合わせながら、戦争の悲惨さを訴えました。参加者の中にはハンカチで目をおおう人もいました。

会長の園田さんは「こんなにたくさんの人に来てもらえるとは思っていなかった。町民だけで、企画できたことはすばらしいこと。これからも湯前に文化の力を根付かせたい」と話し、最後に全員で「翼をください」を合唱しました。



戦争の悲惨さにハンカチで目をおおう

湯前町クリーン作戦 道路や川をきれいに

湯前町クリーン作戦が8月25日に町内全域で行われ、町民が地区ごとに分かれて、川や用水路、道路のごみ拾いに汗を流しました。

美しい自然を守ろうと、県下一斉の清掃活動に併せて開催。全地区の町民が午前6時～午前7時の約1時間、たばこの吸いながらペットボトル、空き缶などを拾いました。

湯前町文化協会(那須清文会長)の会員40人も8月5日にボランティア活動を行い、湯前駅周辺の除草作業に汗を流しました。会長の那須さんは「去年は雨のため、清掃できなかったが、ことしは一昨年よりもきれいになったと思う。会員の協力を得ながら、これからも貢献活動を続けていきたい」と話していました。



ごみを拾いで町をきれいにする町民



除草作業で駅前をきれいにした文化協会の会員